

随 想

同窓会会長 平 田 豊 (22回)

毎年のことではあるが、間もなく8月15日がやってくる。特に今年は、太平洋戦争が終わって60周年ということで、色々な催しが計画されている。

私個人について言えば、私は終戦の年の8月15日を、岐阜県の養老の滝で迎えた。陸軍の航空通信隊の幹部候補生であったが、戦争の末期で、本業の教育訓練は殆んどなく、松根油を採る為の森林伐採や農作業に明け暮れる毎日であった。

「終戦の詔勅」は宿舎になっていた小学校の校庭で聞いた。受信機の調子が悪く、よく聞きとれなかったが、戦争を止めるという天皇陛下のお言葉は、何となく分った。耐え難きを耐え、国民は生きていってくれというお言葉なのだったと思った。このあと、アメリカ軍がやってきて、日本はどうなるのかと先き行きを心配もしたが、いずれにしても命だけは助かったなど、ほっとしたことを今でも鮮明に記憶している。

復員して9月の半ばから大学へ行ったが、校庭の芝生に寝そべって学友達と他愛の無いおしゃべりをしたこと、その頃、「リベラル」という雑誌が発刊されて、生々しい性描写もあったりして、平和とはこんなにも有難いものかと、解放感にひたったことを思い出す。

さて、戦争が終るまで、靖国神社は日本人にとって絶対の存在であった。甲陽中学の時代、我々はおしなべて軍国少年で、将来、兵隊になって、死んだら神になること、そして靖国神社に祀られると教えられた。「靖国の母」や「靖国の妻」という言葉が、けなげな女性に対する賛辞として使われた。「靖国で会おう」という台詞は少々気障っぽくて、私は余り好きになれなかったが、それでも、いずれ軍隊に行ってお国の為に死ぬことになるのかと、漠然と考えていたものである。

その靖国神社が今、国論を二分する問題として揺れている。最近、文藝春秋社が81名の有識者に、小泉総理の靖国参拝についてその是非を問うた。結果は賛否五分

五分であった。日本が一步退けば二歩踏み込まれる。靖国神社を無くしてしまったとすれば、中国は次に天皇制を無くせと言って来るであろう。ヤクザの脅しと同じである。首相は8月15日に堂々と参拝すればよい。これが代表的な賛成論である。靖国参拝は個人という立場では全く自由だが、少なくとも政府首脳は行くべきではない。あの戦争が中国を始めとするアジア諸国への「侵略」だと認めている以上、参拝それ自体が侵略の容認と受けとめられても仕方がない。これが代表的な否定論である。

私見としては賛成論にくみしたい。ただ、経済的には日中の関係は、切っても切れない程に密接につながってしまっている。内政干渉や中国の傲慢さに反発するののもっともな心情だが、もう少しうまい解決策はないものか。今年の夏は、最高に暑くなるのではないかと心を痛める昨今である。

話かわって、わが同窓会の運営は、各部門とも順調に推移した。懸案の奨学金ファンドも、4月の役員総会での最終承認を得て、本格的な歩みを踏み出した。詳細は別掲にゆずるが、お互いの努力によって、このプロジェクトを成功させたいものである。また、8月の会員総会は、京大防災研究所長の河田教授をお招きして、地震の怖さについて語っていただくこととした。阪神の大震災から丁度10年がたち、有意義な話を聞けるものと期待している。1年ぶりの会合にできるだけ多くの同窓生に集まっていたきたく、お願い申し上げる次第である。

甲
陽
だ
よ
り

発行所

〒662-0096 西宮市角石町3-138

甲陽学院同窓会

発行人 平田 豊

印刷所

株式会社 小西印刷所

西宮市今津西浜町2番60号

TEL (0798)-33-0691

同窓会事務局専用

TEL 0798-71-4888

(月・水・木 10:00~16:00)

FAX 0798-71-4890

E-mail :

fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp

甲陽ホームページ

[http://www.kabto-yama.](http://www.kabto-yama.ac.jp/koyo/)

[ac.jp/koyo/](http://www.kabto-yama.ac.jp/koyo/)

今すぐご予約を!

夏の恒例 会員総会

8月27日(土) 14時~17時 於: ノホテル甲子園

— 詳細は 16 ページに —

学校だより

平成16年度 クラブ活動報告

甲陽学院中学校・高等学校の平成16年度クラブ活動の報告を、2004年度版『校報』より転載いたします。内容は、各部の部長に書いてもらったものです。

〈中学校・運動部〉

●バレーボール部

今年は特に良い成績を残すことができませんでした。たくさんの試合経験をつむことができ確実に力がついてきています。新しいチームにはまとまりのあるチームで好成績を残してほしい。

五私学大会 2位

●バスケットボール部

普段から楽しく厳しくこつこつ練習してきました。甲関戦では37-39、他の大会も良い結果を残せていませんが、後輩にはもっとがんばってもらいたいと思います。

●柔道部

厳しい中にも愛情あふれる静先生の御指導のもとで、目標としていた初段を全員とることができました。来年は今年以上の成績をのこしてくれるのではないかなあと期待しています。

市民体育大会 藤田 真志 優勝

総合体育大会

・西宮大会

個人の部	3年	田中 裕人	81kg級	2位
		田中 義裕	73kg級	優勝
	2年	藤田 真志	90kg級	3位

・阪神大会

個人の部	田中 義裕	73kg級	3位
------	-------	-------	----

新人戦

・西宮大会

個人の部	藤田 真志	90kg級	3位
	田中 文哲	73kg級	3位

・阪神大会

個人の部	藤田 真志	90kg級	3位
------	-------	-------	----

団体の部 3位

県大会出場

●陸上部

今年も多くの試合に出場し、結果を残すことができました。甲関戦も勝利し、全体的には充実していたと思います。これからも良い結果を残すことを期待しています。

西宮市民体育大会

走高跳	2位	1m55	村上真一郎
-----	----	------	-------

西宮市総合体育大会

2年100m	2位	12" 3	永楽 淳士
共通200m	3位	24" 6	山田 諒
共通走高跳	3位	1m50	村上真一郎
共通走幅跳	3位	5m29	今井 健
共通4×100mR	4位	47" 2	

朝田・山田・中井・中本

低学年4×100mR	4位	53" 0	
------------	----	-------	--

永楽・直木・肥後・樋上

阪神総合体育大会

3年100m	8位	11" 92	山田 諒
共通200m	5位	24" 18	山田 諒

西宮市新人大会

2年100m	4位	12" 74	永楽 淳士
オープン100m	4位	12" 14	山田 諒

阪神新人大会

2年100m	3位	12" 33	永楽 淳士
--------	----	--------	-------

加古川リレーカーニバル

100m	3位	11" 58	山田 諒
200m	6位	25" 47	今田 侑
100m	7位	11" 86	朝田 恵太
200m	7位	25" 50	今井 健
4×100m	3位	47" 06	

朝田・山田・中井・中本

●剣道部

我々剣道部は常に安定した成績を残しています。今年の中関戦は惜しくも負けてしまいましたが、来年こそは勝利できるように日々努力しています。これからも応援してください。

総体 市内大会 3位

阪神大会 ベスト8

●テニス部

中関戦では2-5と負けてしまいましたが、個人戦・団体戦で例年以上の結果を残すことができました。来年も今年以上の結果を残せるように一層努力してほしい。

西宮市民大会

シングルス	3位	田中
-------	----	----

ダブルス	3位	
------	----	--

田中・直井ペア、森田・松村ペア

県総体 団体戦 3位

●野球部

3年生は人数が少なく、目だった成績を残せませんでしたが、公式試合や甲関戦で良い経験ができました。来年は上を目指してがんばってほしいと思います。

●卓球部

今年は甲関戦勝利、五私学大会優勝と大きな目標を達成し充実した一年でした。後輩には、うまくチームをまとめ更なる努力をし、良い結果が出せる事を願います。

市民体育大会 団体 2・3年 3位

西宮市総合体育大会 3年 3位 阪神大会進出

全日本選手権カデットシングルス 県大会進出

五私学大会 優勝

●水泳部

今年の甲関戦では決してよい結果を残すことはできませんでしたが、水泳部が立てた目標は達成できたので、この調子で来年からも水泳部内で目標をたてがんばっていきます。

〈中学校・文化部〉

●物理部

今年の物理部は音展で、試行錯誤を繰り返した実験や、

普段から打ち込んでいたプログラムを発表したりしました。とても充実したクラブ活動でした。

●生物部

今年の生物部は部員がそれぞれ実験に一所懸命とりくんだため、音展では多くのお客様に来て頂きました。後輩たちがこれからもすばらしい実験をすることを期待しています。

●将棋部

今年は大会実績も残し、音展での冊子も非常に中身の濃いものをつくることができました。来年以降は3年生の果たせなかった表彰台入りを目指して頑張りたいと思います。

第27回兵庫県中学生名人戦

名人戦の部 ベスト12 上野

級位者の部 5位 林

第6回佐藤康光杯争奪将棋大会

B級2組 ベスト4 上野

●化学部

今年の音展もそれぞれが工夫した展示をして充実したものになりました。来年は部員が減ってしましますが、それでも今年を上回る成功を収めてほしいと思います。

●社会Ⅰ部

今年は、音展の入場者数は昨年を大はばに上回り、450人を突破しました。部員3人という苦しい状況の中、テーマに沿った濃い内容に仕あげることができました。入部を期待する。

●社会Ⅱ部

今年の活動も音展に向けてのジオラマ制作を中心とし、充実した活動を行うことができました。今までの反省点を踏まえて、来年も充実した活動をしてもらいたいと思います。

●学報部

今年は3年生のみで活動してきました。音展では約800部印刷した学報が足りなくなる程、多くの人がいらっしました。後輩がいないので残念です。

●美術部

美術部の主な活動内容は秋にある音展へ向け絵を描くことです。今回の音展では一点しか展示できませんでしたが、来年はもう少し、ボリュームのある展示をしたいと思います。

●天文部

今年の音展では去年に比べ、たいへん多くの方々に来ていただけました。しかし、部員が全員3年生なので、来年からのこの部の存続が危ぶまれているのが残念です。

〈高等学校・運動部〉

●バスケットボール部

今年度は新チーム発足後にメンバーが減るなどして、納得のいく結果が残せませんでした。日頃から本番を意識して練習に取り組めていたらもっと違う結果が残せたかと思います。来年良い成績が残せるよう頑張りたいです。

西宮市民大会 優勝

県私学大会Bブロック 優勝

最優秀選手 堀本 篤 優秀選手 青野正裕

県総合体育大会 32位

●水泳部

水泳部では、夏休みの活動を中心に自由に泳ぎ回っています。個人に合った練習をすることで無理なく記録を伸ばし、勉強と運動の両立を最優先した部活動を行っています。健康に気をつけ、充実した毎日をお届けします。

●バレーボール部

今年度のバレー部は、昨年度のチームで多く試合に出ていたメンバーが中心であったこともあり、県大会にも多く出ることができ、その分練習にも大きく力を入れました。次の目標であるリーグ戦1部昇格に向けて、現在も日々練習に励んでいます。

秋季西宮市バレーボール大会 準優勝

秋季バレーボールリーグ戦 2部 4位

阪神バレーボール新人大会 ベスト8 (県大会出場)

阪神バレーボール選抜大会 ベスト8 (県大会出場)

●剣道部

今年度の剣道部は2年生の部員が初心者ばかりで、人数も少なかったけれども、1年生が加わるにより活動できました。つらいことも多かったけれど、県大会出場などといった剣道部としても充実した活動ができました。来年の活動に期待します。

秋季阪神地区大会 第3位 (県大会出場)

西宮市民体育大会 第3位

●柔道部

本年度は部員数は十分にいたが半分以上が兼部している悲惨な状況だったが真面目に1年間やり続ける事ができたなら誰でも黒帯をとれるので柔道未経験者や授業での剣道選択者、もちろん経験者でも興味のある人は気軽に入部してください。

●サッカー部

総勢約40名という大人数で、楽しく一生懸命に練習を行ってきました。いい成績こそ残せませんでした。練習試合も数多く行い、灘甲定期戦も勝つことができ、充実したクラブ活動でした。

●野球部

チーム一丸となり毎日練習に励み練習試合なども数多く行い、みんな上達してきたのですが、大会では良い成績を収めることが出来ませんでした。この悔しさをバネにして、今年こそは勝つぞという気持ちを胸に、頑張ります。

西宮市高校野球大会 ベスト4

第11回阪神間私学交流大会 準優勝

●卓球部

再び試合に出場するようになった高校卓球部は、中学校のように指導するコーチがいないので、それぞれ自主的なメニューで活動しています。まだほぼ白紙の状態なので、部員たちが自らクラブを作り上げていくことができます。

阪神地区高等学校新人卓球選手権大会

シングルスB級 優勝 坂本 洋大

ダブルスB級 準優勝 諸富・村井

西宮市高等学校卓球大会

シングルスB級 優勝 諸富恵一郎

●ハンドボール部

我がハンドボール部はいつも活気に満ちたクラブで、1つのボールを7人でつなぎ、共にゴールを目指してきました。秋のリーグ戦では3部に降格し、悔いの残る1年となったので2部昇格を目指し、日々楽しく明るく練習しています。

●テニス部

新人大会や秋の阪神大会ではシード校に勝利することができたが、上位入賞を果たすことはできなかった。

兵庫県学校対抗テニス新人大会

男子団体の部 ベスト16

兵庫県総合体育大会

男子団体の部 ベスト16

●陸上部

春から1年生だけの部として活動を始めたが、ケガで全く結果を残せない散々なシーズンであった。この過ちを深く反省し、次に生かすことでM先輩の残した100m 10.8の記録を抜き、甲陽史上最速を目指す。

第57回西宮市民体育大会

高校男子 100m 4位

第56回兵庫県高等学校ジュニア陸上競技対抗選手権大会阪神地区予選会

1年100m 2位 1年200m 1位

〈高等学校・文化部〉**●アンサンブル部**

部員は1学年10人程度で、夏のコンクールや他校との合同演奏、様々な学校行事にも精力的に活動しています。夏休みも毎日練習し、日々技を磨いています。個々の演奏がきれいなハーモニーを奏でたときは練習してよかったと心から実感できるので、音楽が好きで、充実した高校生活を送りたい人にはオススメのクラブです。

吹奏楽コンクール 西阪神地区大会 銀賞

●グリー部

昨年は1年生が多く入部し、にぎやかな雰囲気の中活動し、4つのステージに出演しました。今年は近畿総合文化祭に出演することも決まり、昨年以上に精力的に活動していきます。

●将棋部

今年は高校生の大会だけでなく、アマ名人戦やイベントにも足を運びました。団体戦では不本意な結果となってしまいましたが、個人戦では入賞者が出ました。来年は一戦必勝の精神でさらなる飛躍を目指したいと思います。

兵庫県高等学校将棋選手権

B級 2位 松尾 隆弘

兵庫県アマ将棋名人戦 阪神大会

D級 2位 長野 寛樹

●生物部

生物部の主な活動となるのは、様々な動物（マウス、ラット、熱帯魚）の世話と、音展に向けての研究及び音展でのプレゼンテーションです。本年度は3年生横山が日本動物学会でポスター発表を行いました。研究の概要は次の通りです。「鶏胚培養による分化観察」「Ⅲ型アレルギー」。

●地歴部

今年は音展で、現代では知のスポーツとして楽しんでいる麻雀とかつて日本の宗教や政治の基本思想であった御霊信仰の歴史について展示しました。他にも自費で京都へ旅行したり麻雀プロの段位を取得したりと楽しんで活動できました。

●物理部

本年度も主に音展に向けて活動を行ってきました。音展ではモーターを動力とする競技用ロボットと簡単な物理実験を展示し、まずまずの結果だったように思います。来年は音展で最高の展示をすることを目標に活動します。

●写真部

写真部は去年1人でした。活動は主に地歴部の活動時を撮影するというものでした。機材や用品は十分にそろっているの、やる気があれば素晴らしい活動ができます。来年の活動に期待しています。

●文芸部

何処から来たのか覚えていて、何処に行くのか分かっている。そんな旅は本当の旅では無い。意味も意義も忘れ、何も得ず何も失わない。故に、その生涯に意味は無い。だからせめて、終焉まで積み重ねる永劫を、胸に刻んで歩いて行こう。我々の存在した、確かな証として。

●美術部

美術部では、油絵・工作など自由に製作を行っています。音展では教室に個人作品を出展し、テーマにちなんだ共同製作作品を昇降口に配置しました。また私学展に出品参加し、他校との交流をはかるなど充実した活動を送っています。

●化学部

化学部は、今年度、長期間の活動休止状態から息をふき返しました。音展では多くのお客様を迎えることができました。一部の部員が大学の体験プログラムに参加するなど、対外的な活動も行い、有意義な活動になったと思います。

お世話になりました

多くの同窓生がお世話になった母校の職員の方々が退職されました。ありがとうございました。

- 古野 輝さん 高等学校助手
- 小島 和男さん 高等学校職員
- 奥田与四郎さん 中学校職員
- 小島 正治さん 中学校職員

おめでとうございます

母校の山下正昭先生（高等学校教頭、数学）が教育部門における兵庫県功労者として兵庫県知事より表彰されました。兵庫県功労者は、地方自治の発展や教育、福祉などに功績のあった人を表彰する制度で、5月25日に県公館で表彰式が行われました。山下先生は1973（昭和48）年に甲陽学院に赴任され、以来32年あまり教鞭をとられています。

甲陽学院同窓会奨学金ファンド開設

甲陽学院同窓会奨学金ファンドの計画につきましては前号で既に御案内しておりましたが、本年4月の役員総会にて正式に承認され、開設の運びとなりました。

このファンドの目的は、同窓生を中心に広く集めた基金より、母校の在校生に奨学金を給付することです。その具体的な募金要領は下に掲載した通りです。

募金要領2の「募金単位」に関する補足ですが、醸金は1回限りでなく、何年にも分割していただいて結構です。(多額の場合には、贈与税対策として分割していただくことを希望します。)

次に募金要領3の「当番学年」につきましては、募金

呼びかけの中心を担うという意味で、その学年だけで醸金をするということではありません。

また募金要領7の「募金対象」ですが、本同窓会員だけに限らず、広く関係者に呼びかけたいと考えております。

同窓会では、役員総会での承認を受けて、10名からなる本ファンドの管理委員会を発足させ、運用規則(P.10参照)を定めて、具体的な募金・企画・広報・奨学生選考の作業について準備を始めております。(委員長：34回 横内 昭)多くの方からの醸金をお待ちしております。何卒よろしくご協力ください。

甲陽学院同窓会奨学金ファンド募金要領

既に甲陽学院同窓会報などでご案内いたしておりますように、今年度から「甲陽学院同窓会奨学金ファンド」を下記の要領にて募金を開始いたします。甲陽学院同窓会としては、本ファンドが学院の後輩に一層の修学の機会を与える一助になるものと考え、醸金活動にご協力頂きたくお願い申し上げます。

1. 募金母体

甲陽学院同窓会 (任意団体) 代表者：平田 豊
(22回) 同窓会長

2. 募金の単位

個人 一口 1万円
(口数、回数の上限はありません)
法人 (またはグループ) 一口 10万円
(口数、回数の上限はありません)

3. 募金開始時期

2005年4月以降随時ですが、毎年当番学年(2005年度は34回生)が関係者に広く募金の呼びかけを行い、年度の募金目標の達成を積極的に目指します。なお、受給者への奨学金支給は2006年度からになります。

4. 税法上の扱い

払い込まれた寄付金については、同窓会が領収書を発行いたしますが、募金母体が任意団体であるため、当面は個人、法人ともに所得税の軽減の恩典はありません。

5. 募金箱

2015年までの募金目標額を現金で1億円としますが、年度内の支給額と基金としての積立額の割合は当年度の入金状況を勘案して「奨学金ファンド管理委員会」の審議を経て同窓会総会または同窓会理事会の承認を必要とします。

6. 振込先

下記の銀行口座をご利用ください。

UFJ銀行芦屋支店 普通口座 3998990 口座名義
甲陽学院同窓会奨学金ファンド

なお、不動産、証券類、遺産の生前遺贈についての受け入れ方法は、その都度同窓会事務局にお問い合わせください。

7. 募金対象

主たる対象は本学卒業生ですが、新旧教職員、在校生および卒業生の保護者、その他関係者、篤志家の個人、法人を問いません。

8. 基金の管理

本ファンドは同窓会に新たに設けられる「奨学金ファンド管理委員会」が、別途に定める「運用規則」に基づき安全、確実に運用・管理しますが、必要に応じて信用ある外部機関(例えば信託銀行)に委託することがあります。また、定期的に同窓会監事の監査を受けます。

9. 基金の使途

本ファンドは原則として運用の果実を原資として、家庭の経済的な理由で奨学金の支給を希望する在校生の中から、ファンド管理委員会と本学教員が一定の選考基準を満たしたと認めた若干名に返還不要の奨学金を給付します。

10. 拠出者の顕彰

基金への拠出者は個人の場合は氏名および卒業年度(卒業生の場合のみ)、法人またはグループの場合は法人名またはグループ名のみを同窓会報に記載しますが、匿名希望の場合はその限りではありません。個々の金額については、同窓会において記録として永久保存し、特別の公開理由を管理委員会が認めた場合以外は部外公表いたしません。

以上 (2005/3/2)

ファンドにご協力ください!

振込先は UFJ銀行芦屋支店 普通口座 3998990 口座名義 甲陽学院同窓会奨学金ファンド

振込人の卒業回生が分かるようにお振込みください

第7回 リレー随想

耐 の 青 春

原田 達也 (27回)

「甲陽って、やはりオモロイ学校や。敗者復活をさせよる」とあらためて私は思った。私のような者に原稿依頼が来た時である。

私は来秋には喜寿を迎える47年卒第27回の老人、現職といえは駿河の港町で息子が主宰する居酒屋チェーン社の飾り物的役員にすぎない。「ホンマかいナ？」の問いかけに旧友のT君は、昨夏私が出版した自分史“カワラ版人生四十四年”を読まれた理事からも推薦と聞いて納得、気楽にもなった。同時に昨秋急逝された剣道部先輩でもある故中島久教頭の言葉も思い出された。

私は産経新聞の田舎記者をふり出しに大阪、サンスポ、夕刊フジから日刊ゲンダイと、それも立売り即売畑を主に44年、70歳まで勤めて戦後関西の夕刊紙の興亡を身近かに見てきた。それもマスコミを代表する記者、言論人ではなく、彼らを支える裏方、販売人としてというのがミソといえよう。全国的夕刊紙二紙までの創刊誕生を手がけたのは私一人だけと自負心すら持ったものだ。以って瞑すべきかもしれない。

激動するマスコミ業界で生き残ったのは何かと、この際自問自答してみた。

これだと言えるものがない。旧友たちの話から結局「我々の青春が昭和動乱期と重なったお蔭の体験が我々―私にあった」と結論づけることにした。

「青春を一言で言えバ？」と現役時から私はバイト学生によく話しかけたものである。「何でもできる」「夢描く」から立志、暗中模索、試行錯誤といずれも間違いのない言葉が返ってきた。然しガマン、忍耐できるの語は遂ぞなかった。学資稼ぎではなく、マイカーや遊びのためと大言する者がふえてきていた。時代は確かに変わったとつくづく思ったものだ。

私達27回生は昭和4、5年生まれ、食べ盛りの戦中戦後、学徒動員、食糧難で我慢を、長じて大学受験はともかく、敗戦と学制改革による未曾有の就職難で競争への闘争心、負けじ魂を叩き込まれたと思う。

特攻くずれ、アプレゲールと揶揄痛罵される者もいたが、昭和28年学卒は官私を問わず“華のニッパチ”と謳われて官政界、各業界で頭角を現してきた。後年、安保世代の呼称もあったが、昨今の団塊世代と似ているかもしれない。

ところが当時の私は、取材記者から変身辞令をうけて販売畑に、更に主流の宅配から傍流の即売担当にと流転の形であった。

この間の紆余曲折は私の自分史とダブルので省略するが、本人が中途採用による差別、左遷と不遇をかこつ間に、皮肉にも開運の神は私を手招きし始めていたと思われる。もっとも今にしていることではある。

バブル景気を緒に宅配部門は各社との販売拡張合戦と労務難で発行本社は大弱り、即売の大阪、サンスポ、次いで夕刊フジがドル箱となってきたのである。

産経大阪本社にとっては夕刊フジの関西進出は僚紙大阪新聞との競合もあって新社長の大号令とはいえ、まったく「招かざる客」である。一方、鉄工所勤めの私が三顧の礼で迎えられたのは、なんと系列でも孫会社、支配人であった。労務難から朝夕刊配達も兼ねる支配人稼業

ほぼ一年。その私にフジからお呼びがかかったのは創刊一カ月前、米国衛星「アポロ」が月面着陸した70年8月であった。創刊まで一カ月もなかった。

唯一人の即売経験者である私はフジ社員の正式辞令を頂くまでは覆面参謀で甘んじた。

即売業者との取引契約、PR紙作成と配布、浪花名物となったカベ新聞と作戦は相次ぎ成功し、フジでの増収は産経再建の救世主ともなった。左遷、逆境の不遇で得た体験がフジ産経復社への道となったのである。

ところがフジ在職11年11カ月満53歳になったところで、大阪新聞・夕刊フジ共同のライバル―日刊ゲンダイ社にスカウトされるのである。

当時の産経社内は覇権争いが激化するばかり、その余波で臨時の中途採用、初老の私は戦略本線から追いやりれ配送バイト生30余名を統轄する親父、つまり窓際族になりかけていた。

先輩中島教頭との再会は確かこの頃である。戦後の混乱で霧散した動員仲間を捜し求めての同窓会は36年ぶり、誰も定年間近であった。翌春、会場を動員先の関ベ尼崎工場で開いたのがユニークと朝日の社会面トップを飾った。

折しも甲陽学院創立70周年の記念映画作製の話もあって参画、大きな刺激をうける。

中島教頭は現場工場での同窓会開催にさすが甲陽OBと感嘆され、收拾つかない同窓会名簿もやっと整備できると喜ばれた。

日本一となった京大アメフト部に甲陽OBが多いとも聞かされ、私も発奮する。

そこへ講談社の日刊ゲンダイ関西進出である。編集陣は東京の出向組で十分だが、販売は土地勘ゼロでは務まらない。自薦他薦の数多候補者の中から私に白羽の矢が立った。

早稲田の絆もあったが、編集から印刷、新聞輸送に配送、販売まで体験、熟知しているのは私一人であった。屈辱に耐え、汗してきた職場体験が凡てプラスとなったわけだ。

病氣療養で休学したお蔭で弁護士になった旧友I君、劇映画のカメラマンからTV製作の子会社左遷で人気シリーズ番組黄門カメラマンとなった実弟U。―捨てる神あれば拾う神あり、吉凶はあざなう縄の如し―

古い諺だが、まさに然りである。ただ単に逆境不遇に堪え忍ぶだけでは世間に、拾う神に見捨てられる。逆境を吉に転ずるチャンスとプラス思考で捉えることが肝心なのである。

さらにできれば「分ヲ知リテ足ルヲ知ル」の現場認識だ。自分の立場、職分を熟知してこそ余裕も生まれ、上達もする。上司に、開運の女神に見いだされると私は思う。

夕刊フジ創刊準備本部の覆面参謀に迎えられた時から、私は新しく手帳を替えるたびに

「知^リテ^レ分^ヲ知^ル足^ルヲ知^ル」と格言を墨書してきた。そのお蔭か、愚息の社長とトラブったこともない。日々是好日で余生を楽しませてもらっている。

清酒「白鹿」酒蔵と訪ねて

2月28日発行の会報「甲陽だより」第71号で案内された清酒「白鹿」酒蔵見学会が、3月26日(土)行われました。これは辰馬本家酒造株式会社のご好意によるもので、同窓生とその家族31名が参加しました。

* * *

最新鋭の醸造工場「六光蔵」で、酒造りの工程を壱岐製造部長はじめ同社スタッフのご案内で順序良く見学した後、酒樽を菰で包む熟練の名人芸が演じられ、大拍手を送りました。続いて訪れた酒ミュージアム（財団法人白鹿記念酒造博物館）では、工場では見られない伝統的の酒造りの手法が、視覚に訴える形で展示され、背景には「酒造り唄」も流されていました。

見学終了後は懇談の場が設けられ、酒造りについての質疑の他「利き酒コンテスト」「各種銘酒試飲」を楽しみ、和気藹々の盛り上がりを見せました。樽酒、純米酒、吟醸酒の三種の利き酒の結果は、約50%の正解率で利き酒名人が誕生しました。これは一般の正解率より高い率とのことで、学校法人辰馬育英会甲陽OBの面目をほどこしたといえるでしょう。

試飲に提供された銘酒は、最高の純米大吟醸酒「豪華千年寿」、特別本醸造「白鹿山田錦」、もち米四段仕込本醸造「レ」、吟醸生貯蔵酒「特撰黒松白鹿」それに「小さな幸せ」という梅酒と吟醸酒のカクテルの五種でした。リキュール「小さな幸せ」は、同社女子社員のアイデアにもとづく開発商品であると説明されました。同社の新商品開発意欲と、社内風通しの良さをしのばせるものと思われま

* * *

■米・水・技

言うまでも無く酒造りには、原料米と仕込みに使う水が決定的な役割を担っています。ここ「白鹿」も精選された原料米 山田錦と、天の恵み「宮水」に支えられてきました。それに丹波杜氏の技が加わって、天下の銘酒が醸造されてきました。

■近代的化学工場

ところが今や杜氏の技は、醸造学の発達とコンピューター活用の製造管理技術の融合によって、近代的化学工場に生まれ変わりました。

母方の祖父が大垣で蔵元、また親戚が九州国東半島で酒造り（いずれも廃業）、さらに友人が琵琶湖北西湖畔で、400年の歴史を持つ地酒造りと日本酒には親しみをを感じる環境がありました。しかし酒造りの現場を見たことが無く、今回初めて酒造りを見ることができ、それも杜氏の技に触れられるということに、大きな期待を持って参加しました。

「酒造り唄」と共に杜氏が丹精込めて仕込み、酒をしほる現場を想像して見学に参加した私は、銀色に輝くタンクとパイプが交錯する「六光蔵」を訪れて、正直言って少し拍子抜けがありました。

しかし経験とカンに支えられたその道を究めた職人技が、科学の力によって最高の酒を造ることになっても、科学は伝統技のうえに花咲いたもので、より良い酒を愛酒家に届けようという「白鹿」の伝統と心意気は、いささかも変わっていないことが判りました。

■日本酒の飲み方

私も若い頃はビール、ウィスキー、食事はビフテキが大好きでした。近年日本酒と和食に嗜好が変化してきましたが、一方日本全体では日本酒の消費量が低下傾向にあると言われます。心行くまで味わえる酒は、日本酒をおいてないと思います。デリカシーを尊ぶ日本人が、先祖伝来の知恵の結晶とも言うべき日本酒から離れて行くのは残念なことです。

辰馬本家酒造の辰馬章夫社長は、1月27日の朝日新聞夕刊に「酔い覚めがスッキリする」飲み方を紹介されています。日本酒をじっくり味わいながら、「和らぎ水」を少し飲むことが肝臓への負担も軽くし、酔い心地もしびれる最高の飲み方と推奨しておられます。

* * *

ともあれ関東在住の私ではありますが、感謝と次回の見学会にも参加したいという期待を胸に、白鹿酒造を後にしました。

(鈴木 登・31回)

『白鹿商品』試飲と試食のご案内

甲陽学院同窓会員対象の白鹿酒造見学会は今年で2度目の実施をみましたが主に京阪神地区在住の限られた会員様の参加となりました。そこで白鹿さんより次の通り提案があり、全国の同窓会員の皆様にも試飲・試食の機会を設けていただくことになりました。つきましては、ご希望の方は下記の要領で奮ってご応募ください。

記

申し込み方法：

インターネットにてお申し込み下さい。

<https://www.hakushika.co.jp/bishu/enq/koyo01/index.php>
内容に沿って 氏名、(回生)、住所 (お届け先)、メールアドレス等ご記入ください。

試 飲 品：黒松白鹿 特別本醸造

山田錦 300ml 1本

試 食 品：白鹿 奈良漬 瓜 100 g 1個

申し込み期間：平成17年9月末日迄

商 品 発 送：平成17年8月中旬より

※個人情報保護法に基づき、商品の発送または新商品のご案内の目的以外には一切利用されません。

会 務 報 告

1 はじめに

平成16年度（16.4.1～17.3.31.）の会務報告につきましては、前号で詳細を申し上げますので、ここでは平成17年4月28日に開催されました役員総会の議事内容についてご報告をさせていただきます。

2 役員総会・議事内容

- (1) 平成16年度・会務報告
- (2) 平成16年度・決算報告
- (3) 平成16年度・監査報告の承認を求める件
- (4) 平成16年度・決算の承認を求める件
- (5) 「甲陽学院同窓会・奨学金ファンド」設立の承認を求める件
- (6) 会則改訂の承認を求める件
- (7) 「新終身会費制度・特典」の期限延長の承認を求める件
- (8) 平成17年度・活動方針の承認を求める件
- (9) 平成17年度・予算の承認を求める件
- (10) その他の事項について

上記の諸議事につき、それぞれ担当責任者から報告・議決事項の詳細な報告と説明があり、出席の理事・評議員からの活発な質疑応答があって、報告事項・議決事項とも満場一致でご承認を頂きました。以下、重要な議決事項につきましてご説明をさせていただきます。

3 委員会活動について

16年度の活動方針に従って、各委員会が同窓会活動の牽引車となり、活発且つ充実した展開を行いました。

この委員会活動で、特に各委員長が意を注ぎ、その実りある成果を挙げつつあるのは、同窓会活動への若手層の参加であります。従来はともすれば仕事の時間的な制約もあり、各委員会とも年輩者層が中心になりがちでありました。これに対して、先輩諸氏の好リードがありまして、積極的に若手を起用し、先輩・後輩の垣根を取り外し、活発な論議が戦わされ、若手層の新時代に即応した斬新な考え・意見を取り入れることにより、これが大きく同窓会活動の推進力となっています。これにより同窓会の活性化が、年ごとに充実され良い方向に進んでいるものと確信しております。

①会報編集委員会 ②会員総会運営委員会 ③会務運営委員会（甲陽奨学金ファンド検討部会 甲陽アーカイブス検討部会）の活動が、以下の承認・議決事項となつて、17年度の活発・充実した同窓会活動へと継続されていきます。

4 平成16年度の決算報告について

当年度の決算につきましては、別途掲載の決算書のとおり、収入面で平成15年度から発足しました「新卒者からの終身会費制度」の効果が現れたこと、そして、年会費・終身会費の納付促進策と、理事・評議員・各学年の幹事の方々の協力と努力により、会費収入が予算額・996万円を上回り、1,296万円の収入を得る事が出来ました。一方、支出面では事務の合理化と経費の節減に懸命の努力を致しましたが、予算額・988万円に対して、実支出は999万円と予算額を11万円ほど上回る数字となりました。

よって、全体の収支としましては、収入総計19,554,126円に対して、支出総額は10,064,124円となり、差し引き9,490,002円（前期は、6,591,987円）が、来期への繰越金となります。

この要因は、年会費・終身会費の納入増と新卒者による新終身会費の納付であります。今後とも会費の納付促進策に工夫と努力を惜しまず、事務局として熱意をもってその職責を果たす覚悟でおりますので、今後とも皆様の一層のご協力とご支援をお願い申し上げます。

5 「甲陽学院同窓会・奨学金ファンド」について

甲陽学院同窓会の新たな事業としまして、ここに「甲陽ファンド」が設立されました。設立の趣旨については、この2月に発行の会報・71号にて、詳細をご説明しました通りであります。この設立趣旨と「募金要領」と「運用規則」が、役員総会で承認・議決されました。同時に、「甲陽奨学金ファンド管理委員会」が設けられ、その確実な管理・運営・運用を行う事になりました。

6 同窓会・会則の一部改定について

本役員総会にて「甲陽奨学金ファンド」の設立が議決されましたので、これに関連する会則の改定（条文の追加）が上程され、その改定が承認・議決されました。

1) 第1章 総則 第4条（事業）

本会は会報ならびに会員名簿の発行、会員の親睦会の開催、〔及び母校の在校生への奨学金制度の運用・管理、〕その他前条の目的を達成するために必要な事業を行う。

2) 第4章 会議 第28条（委員会）

本会に常設の委員会として、会報編集委員会、会員総会運営委員会、〔並びに奨学金ファンド管理委員会〕を設置し、会長は必要に応じ、臨時の委員会を設置することができるものとする。

3) 第5章 会計 第31条（会計）

本会の会計は一般会計、〔並びに特別会計、及びファンド会計〕とする。

* [] 中の条文が追加・改定されました。

7 「新終身会費制度・特典」の再延長について

1. 提案の要旨

- *平成10年度の役員総会で「新終身会費制度」と、それに付帯する「特典」が承認されました。但し、この特典は平成12年度末までの時限立法として成立しました。
- *この特典は、同窓会財政の厳しい状況から、毎年の役員総会で今日まで再延長されてきました。
- *この特典を平成19年度（創立90周年）まで、更に再延長をする提案を行い、本役員総会で承認を得ました。

2. 再延長後の対策と展開

- *現在、会務運営委員会に於いて、年会費の増額問題・特典を廃止した場合の終身会費の上限5万円（現在は特典により3万円）問題・上限が5万円になった場合の新卒者からの終身会費の金額（現在は3万円）問題・各学年ごとの刻み（現在は500円刻み）の金額問題など、特に特典を廃止して発生する諸問題点を検討中であります。
- *19年度まで再延長する理由は、この間に特典の持つメリットを更に有効に活用して頂く事、年会費の納付から終身会費に切り替えて頂く事、周知期間と猶予期間を設けたい事、平成20年度からは、会務運営委員会で結論を得、役員総会で承認を得た財政の新制度を発足させ、同窓会財政を健全化・安定化させたいが為であります。

3 特典を継続させる効果

- *その効果は、本制度が発足してから2,034名の方が、年会費から終身会費の納付に切り替えられ、その納付金額も毎年200万円台から400万円台が収入として計上されてきました。この特典により至難とされた同窓会財政の再建がなり、財政の健全化が継続して確保されてきました。
- *特典が廃止となれば、年会費が1,000円として、上限が5万円（25歳）から下限が1万円（75歳）で50年間の1,000円刻みの終身会費の金額となり、納付金額の高い若い層の終身会費への切り替えが減少します。
- *更に、卒業時に新卒者が選択する終身会費（3万円が5万円となる）の納付が激減する可能性が高くなります。この減少が同窓会財政の危機を再び招きかねません。
- *よって、特典メリットを継続させる事により、現在の同窓会財政の一応安定している財政状況を継続させたい。

4. 今後の対策について

- *平成19年度末（平成20年3月末日）までに、会務運営委員会に於いて上記の懸案事項につき貴重な協議を重ね、その解決策を見出したい。その実施については、その時の役員総会の承認を得て行うものとする。

8 平成17年度の予算について

新年度の予算編成につきましては、同窓会の厳しい財政状況を考慮し、更なる事務の合理化による経費節減と、現実に即した支出の見直しを図りたいと考えています。

収入については、前年度の実績を配慮し、特に会費収入には前年度を上回る努力目標を設定した予算額として、末尾に掲載の予算書にて承認を得ました。

9 平成17年度・活動方針について

1. 本年度の会員総会は、平成17年8月27日(土)にノホテル甲子園にて開催するとしてしました。
2. 「甲陽だより」第72・73号の発行。
3. 会報編集委員会・会員総会運営委員会・甲陽ファンド管理委員会、並びに会務運営委員会を編成する。
4. 支部並びに地域甲陽会の結成と育成をはかる。
5. 「甲陽アーカイブス」の推進母体を発足させる。

10 同窓会・個人情報の保護について

1. 個人情報の取り扱いについて

平成17年4月1日より「個人情報の保護に関する法律」が全面施行されました。同窓会としまして、かねてから会員の個人情報につきましては、その機密保持には万全の注意を払い、適正且つ厳格な取り扱いを行ってまいりました。同窓会（事務局）としまして同法の施行にあたり、今まで以上に同窓会会員の個人情報は、会員個人の重要な財産であることを肝に銘じ、その適切な保護と利用に徹底して取り組んでまいります。

2. 同窓会が持つ個人情報とは

同窓会が収集・保有・活用する、会員の氏名・自宅住所・自宅電話番号と、最終出身校名、現勤務先名・勤務先電話番号など、個人が特定できる個人情報であります。

3. 同窓会が持つ個人情報の適切な管理について

同窓会が保有する個人情報については、漏洩・紛失・破壊・改竄等がないように防止策を講じ、事務局による厳正な管理によりその利用と保管を行います。

なお、同法並びに関連する法令を順守するは勿論、事務局内に取り扱いの内規を設け、情報主体である会員の個人情報や、これらの権利への配慮を確実にいたします。

4. 個人情報保護体制の確立と、その継続的な見直し

個人情報の保護体制を確立し、同窓会への信頼の確保に努力します。また、保護体制の定期的な見直しにより、継続的に改善を行い、同窓会を安心して活用して頂けるよう努力します。

5. 同窓会業務委託先の厳正な管理・監督について

同窓会活動で、必要な範囲で業務を外部に委託する事があります。例えば、会則で定められた事業である会報・会員名簿の発行です。会報の封入・発送は外注しています。会員名簿の編纂・発行も外部に委託しています。これらの場合には、業務委託先での個人情報の適切な管理・監督を行える処置をとりたい。

*会員名簿の委託先である株式会社両備システムソリューション（旧・リオスコレーション）との間で、既に「個人情報の保護に関する覚書」を締結しており、今後とも同社との「個人情報の保護」について、相互に密接な意思の疎通をはかって参ります。

●平成16年度決算報告書●

[収入の部]				[支出の部]			
科 目	決 算 額	予 算 額	差 引 額	科 目	決 算 額	予 算 額	差 引 額
会 費	12,047,395	9,200,000	2,847,395	人 件 費	2,102,760	2,116,000	△13,240
※年 会 費	3,248,395	1,200,000	2,048,395	※月 手 当	1,536,000	1,536,000	0
※終 身 会 費	4,174,000	2,500,000	1,674,000	※夏 冬 手 当	300,000	300,000	0
※新卒入会金	615,000	600,000	15,000	※通 勤 費	266,760	280,000	△13,240
※新卒年会費	1,435,000	1,400,000	35,000				
※新卒終身会費	2,575,000	3,500,000	△925,000	交 通 費	93,635	100,000	△6,365
会報広告料	40,000	40,000	0	需 要 費	560,889	630,000	△69,111
総会会費収入	735,500	700,000	35,500	※通 信 費	483,179	500,000	△16,821
利 子 収 入	1,744	20,000	△18,256	※事務消耗品費	77,710	80,000	△2,290
				※備 品 費	0	50,000	△50,000
雑 収 入	40,500	0	40,500	会 議 費	3,422,886	3,050,000	372,886
寄 付 金	97,000	0	97,000	※会員総会費	1,838,795	1,700,000	138,795
				※役員総会費	262,293	300,000	△37,707
収入合計	12,962,139	9,960,000	3,002,139	※理事会会費	304,212	350,000	△45,788
				※委員会会費	838,812	500,000	338,812
基本金解約	0	0	0	※懇談会費	178,774	200,000	△21,226
繰 越 金	6,591,987	6,591,987	0	事 業 費	3,466,544	3,640,000	△173,456
				※甲陽だより	852,757	1,200,000	△347,243
合 計	19,554,126	16,551,987	3,002,139	※郵 送 料	1,525,557	1,400,000	125,557
◎平成17年3月末日現在 現預金残高明細				※振替用紙代	161,070	120,000	41,070
				※封 筒 代	189,840	120,000	69,840
				※記 念 品 代	597,320	600,000	△2,680
				※母校後援費	140,000	200,000	△60,000
				雑 費	367,410	350,000	17,410
				※校 内 志	40,000	50,000	△10,000
				※慶弔その他	84,494	100,000	△15,506
				※振 替 料	107,590	100,000	7,590
				※その他雑経費	135,326	100,000	35,326
				支出合計	10,014,124	9,886,000	128,124
				特別積立金繰入	50,000	50,000	0
				予 備 費	0	6,615,987	△6,615,987
				支出総計	10,064,124	16,551,987	△6,487,863
				収入総計	19,554,126	—	—
				支出総計	10,064,124	—	—
				翌年繰越金	9,490,002	—	—

(単位：円)

●平成17年度・予算書●

[収入の部]				[支出の部]			
科 目	16年度	前 年 度	差 引 額	科 目	16年度	前 年 度	差 引 額
会 費	10,000,000	9,200,000	800,000	人 件 費	2,116,000	2,116,000	0
				※月 手 当	1,536,000	1,536,000	0
※年 会 費	2,000,000	1,200,000	800,000	※夏冬手当	300,000	300,000	0
※終身会費	3,000,000	2,500,000	500,000	※通 勤 費	280,000	280,000	0
※新卒入会金	600,000	600,000	0				
※新卒年会費	1,400,000	1,400,000	0	交 通 費	200,000	100,000	100,000
※新卒終身会費	3,000,000	3,500,000	△500,000				
				需 要 費	600,000	630,000	△30,000
会報広告料	60,000	40,000	20,000	※通 信 費	500,000	500,000	0
				※事務用消耗品費	80,000	80,000	0
総会会費収入	700,000	700,000	0	※備 品 費	20,000	50,000	△30,000
利子収入	20,000	20,000	0	会 議 費	3,000,000	3,050,000	△50,000
				※会員総会費	1,700,000	1,700,000	0
				※役員総会費	250,000	300,000	△50,000
雑 収 入	0	0	0	※理 事 会 費	250,000	350,000	△100,000
				※委員 会 費	600,000	500,000	100,000
寄 付 金	0	0	0	※懇 談 会 費	200,000	200,000	0
収入合計	10,780,000	9,960,000	820,000	事 業 費	3,540,000	3,640,000	△100,000
				※甲陽だより	1,000,000	1,200,000	△200,000
基本金解約	0	0	0	※郵 送 料	1,500,000	1,400,000	100,000
				※振替用紙代	120,000	120,000	0
繰 越 金	9,490,002	6,591,987	2,898,015	※封 筒 代	120,000	120,000	0
				※記 念 品 代	600,000	600,000	0
				※母校後援費	200,000	200,000	0
合 計	20,270,002	16,551,987	3,718,015				
				雑 費	340,000	350,000	△10,000
				※校 内 志	40,000	50,000	△10,000
				※慶弔その他	100,000	100,000	0
				※振 替 料	100,000	100,000	0
				※その他雑経費	100,000	100,000	0
				支出合計	9,796,000	9,886,000	△90,000
				特別積立金繰入	97,000	50,000	—
				予 備 費	10,377,002	6,615,987	—
							—
				支出総計	20,270,002	16,551,987	

(単位：円)

甲陽学院同窓会奨学金ファンド管理委員会・運用規則

(名称)

本ファンドは甲陽学院同窓会を母体とする一活動分野であり、「甲陽学院同窓会奨学金ファンド」(以下、本ファンド)と称する。事務局は同窓会内に置く。

(目的)

本ファンドの目的は、甲陽学院中学校、高等学校の在校生で修学に必要な経済的支援を希望し、かつ一定の選考基準を満たした者を対象とする奨学金給付制度であり、給付金の返還は求めない。

(寄付と財産)

本ファンドは甲陽学院の卒業生、在校生保護者、教職員、学院関係者および篤志家などの個人、法人からの自発的な寄付行為による醸金を募り、同窓会会計の中に「ファンド勘定」を開設して管理・運用するものとする。給付する奨学金は原則として基金運用によって生ずる果実をもって充当する。

(募金活動)

毎年一定時期を「募金期間」と定め、同窓会報、同窓会ホームページ等を通じて同窓会員、関係者に募金要領、年度募金目標等を示して募金活動を行う。

(拠出者の顕彰)

卒業生の拠出者に関しては、氏名と卒業年次、その他の拠出者については氏名のみを同窓会報に記載するが、匿名希望者に関してはその限りでは無い。夫々の拠出金額は同窓会事務局に氏名と共に永久記録するが、公開に関しては本委員会の承認を得るものとする。

(委員会の活動)

- 1) 委員は同窓会正会員の中から同窓会長が10名を指名、委嘱し委員長は互選にて選出する。委員の任期は原則として一期2年とするも、半数以内の委員に限り追加一期の再任を妨げない。
- 2) 委員会の主たる業務は、基本財産の堅実、安全な運用と増殖、年次ごとの募金目標額、支給奨学金総額、経費予算額等の審議と設定、収支決算作成、および受給を申し込んだ候補者の中から奨学金受給者の選考作業を行う。
- 3) 委員会は奨学金受給者の選考にあたり、申し込みのあった在校生の、経済的支援の必要性を優先すると同時に、学業、芸術、スポーツなどの幅広い分野での才能と実績を評価、検討しなければならない。また選考過程においては、数名以上の現職学院教職員の意見、評価、推薦を優先的に採用しなければならない。
- 4) 支給する奨学金の金額、時期、方法については、個々の受給者の得意分野、家庭状況、修学環境などを勘案して決定する。受給者が継続して奨学金を受給するに相応しくないと判断するに十分な状況(退学、休学、虚偽の申告を含む)が判明した場合には、委員会の議決を経て支給を停止、削減することが出来る。
- 5) 委員会は委員長が招集し過半数の委員の出席が無ければ開催できない。また、財産の運用、財産の支出、本ファンドの解散と残余財産の処分等の重要案件の議決は出席委員の3分の2の賛成を得たうえで、案件内容の重要度に応じて理事会、または役員総会の承認を得なければならない。

(その他)

特段の定めがない場合は、「甲陽学院同窓会・会則」に準拠する。
以上

● 終身会費・各回別納付金額設定表 ●

回 生	金 額	回 生	金 額	回 生	金 額
1回	10,000	33回	10,000	65回	25,500
2回	10,000	34回	10,000	66回	26,000
3回	10,000	35回	10,500	67回	26,500
4回	10,000	36回	11,000	68回	27,000
5回	10,000	37回	11,500	69回	27,500
6回	10,000	38回	12,000	70回	28,000
7回	10,000	39回	12,500	71回	28,500
8回	10,000	40回	13,000	72回	29,000
9回	10,000	41回	13,500	73回	29,500
10回	10,000	42回	14,000	74回	30,000
11回	10,000	43回	14,500	75回	30,000
12回	10,000	44回	15,000	76回	30,000
13回	10,000	45回	15,500	77回	30,000
14回	10,000	46回	16,000	78回	30,000
15回	10,000	47回	16,500	79回	30,000
16回	10,000	48回	17,000	80回	30,000
17回	10,000	49回	17,500	81回	30,000
18回	10,000	50回	18,000	82回	29,000
19回	10,000	51回	18,500	83回	28,000
20回	10,000	52回	19,000	84回	27,000
21回	10,000	53回	19,500	85回	26,000
22回	10,000	54回	20,000	86回	25,000
23回	10,000	55回	20,500	高商・1	10,000
24回	10,000	56回	21,000	高商・2	10,000
25回	10,000	57回	21,500	高商・3	10,000
26回	10,000	58回	22,000	高商・4	10,000
27回	10,000	59回	22,500	機械・1	10,000
28回	10,000	60回	23,000	機械・2	10,000
29回	10,000	61回	23,500	造船・1	10,000
30回	10,000	62回	24,000	造船・2	10,000
31回	10,000	63回	24,500	工業・1	10,000
32回	10,000	64回	25,000		

※80～86回は前納年会費以外に上記の金額となります。(単位：円)

会員総会のゲスト講師
河田教授のプロフィール

河田恵昭（かわた・よしあき）：1946年3月4日大阪府生まれ。1974年京都大学大学院工学研究科博士課程修了。工学博士。76年京都大学防災研究所助教授を経て、93年教授、96年巨大災害研究センター長。2002年阪神・淡路大震災記念・人と防災未来センター長（兼務）、2005年4月より京都大学防災研究所長、21世紀COE拠点形成プログラム「災害学理の解明と防災学の構築」拠点リーダー。大都市大震災軽減化プログラム（文部科学省）研究代表者。日本自然災害学会前会長、日本災害情報学会副会長。政府関係では学術審議会委員（文部科学省）、中央防災会議「首都圏直下地震対策専門調査会」「東南海、南海地震等に関する専門調査会」の各委員。ほかに、内閣府、国土交通省、気象庁、消防庁の各委員。著書に『防災学ハンドブック』（共著）、『自然災害の危機管理』など。



■ あて名ラベルの記号の見方

平成 17 年 6 月 30 日現在での同窓会費の納入状況をご案内しています。

例：終身会員 H11 年度

♪ 卒 1 1 1 1 1 0 0 終

② 下段には左から順に、平成元年度、2 年度、…16 年度の年会費のお支払い状況を示しています。

▼記号の意味

1	当該年度分の年会費を納入済	終	当該年度に終身会費を納入	♪	甲陽学院に在籍
0	未納			卒	その年の 3 月に卒業

従いまして、下段に含まれる 0 の個数 × 1000 円が、未納の年会費となります。
同封の振り込み用紙にてお支払いください。

★ H 元年以降に御卒業の方は、卒業時から 7 年分の年会費を予めお納め頂いております。
次の二つの例をご参照下さい。

♪ ♪ 卒 1 1 1 1 1 1 0 0 0 0 0 0

H10 以降は未納です。
未納分をお納め下さい。

H15 年分まで納付

♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ 卒 1 1 1 1 1 1

H8 年 3 月に御卒業、さらに 1 年分の年会費を頂いたので、
H15 年度まで納付しておられます。

⑮ 尚、年会費を納められるとき「何年度分」と指定されても、過去分が未納の場合、
そちらへ充当させていただいております。また不明の場合は、事務局までお問い合わせ下さい。

会員だより



18回 山桜会

平成17年5月23日(月)ホテルグランヴィア大阪19階大和屋「林泉」にて第15回山桜会を開催しました。

出席者は写真向かって右より清水春彦、貴田忠三、森本 浩の三君と私青山敏男の4人で出席者の少ないのは寂しいでしたが思い出は70年余の昔に戻り楽しい一時でありました。

転倒せぬ様風邪引かぬ様注意して来年度も元気で再会を約して散会しました。(青山 記)



21回 桜組会

平成16年度の桜組会は、例によって前年度の申合せ通り11月の第3木曜日(18日)午後4時から、場所も同じ西宮市内はT町「ぐる～めS子」と「L亭」(二次会)で開催されました。会が佳境に入るにつれ、歓談に花が咲き、お開きにするのを惜しみつつも、翌年の再会を約して解散しました。ただ参会の方が殆んどきまりですので、来年こそは、常連の方の他一人でも多くのご参加を期待することにしたいと思います。

(参会者) 越智、鍵本、加藤、木村、堀の諸兄に私長村でした。(長村 記)

22回 橘友会

平成17年4月2日午後、宝塚のホテル若水で橘友会を開催、のんびりと温泉を楽しんだ先着組みに合流した10名が集う日本料理「山茶花」での宴は、久しぶりの懐旧談で大いに盛り上がりました。

お互いの近況報告では、傘寿を迎える高齢者のゆえか、種々の病気克服情報が交換され、10名が元気で参集できた喜びをかみしめ、再会を約して家路に就きましたが、3年程前から桃友会他で同期の中島久君と飲む機会が多く、何度も「K組はやんちゃ者ばかりやったけど、今でも元気で集まれてええなー、うらやましいわ」とこぼしておられた声を思い出し、改めてご冥福を祈りました。

写真は後列左から、東京の菅野、本莊、山本、白岡、赤塚、清水、前列左から、芦田、斎藤、池田、酒井です。(酒井 記)



24回 桃組(黒桃会)

お互い、何時、何が起るか、わからない歳だから、毎年集まることにしよう、ということで。今年は場所を変え、4月8日(日)にクラス会を開催した。年々一人、二人、と欠けて行き、現在生存者で所在の把握出来ている友は、19名となった。遠隔地の友、病身の友、急用の友と、不参加者が有り、9名の参加となった。昼食を挟んで、午後の短い時間であったが、四方山の話に、時の経つのも忘れ、賑やかな、楽しい一時を過ごすことが出来た。次回も4月第一週に集まることを約して、散会となった。(幹事)

出席者(向かって左前より右へ)

園田、勝部、末広、日垣、福永、中川、松本、田渕、天目 以上



29・31回 同期会

平成17年4月16日(土)の桜花爛漫の良き日、待ちに待った同期会が梅田新地のパーティーパークで開催された。集う仲間・47名の悪ガキどもであるが、皆それぞれに、それぞれの人生を懸命に闘ってきた。その表情に・その姿勢に・その話し方に、その生きてきた苦勞が現れている。しかし、お互いの顔の中に、少年時代の面影を発見し感慨に耽る。「昔の顔を思い出せ。当時の顔で、当時の気持ちになって、当時の話をしよう。」が我々仲間の合言葉である。飲めば飲むほど酒の味・語りあかせば人の味・男が男に惚れた味、を満喫した良き半日であった。来年の元氣な再会を約し、それぞれ紅灯の巷に悠然と散っていった。(K・A 記)

29・31回 甲東会

柳条梢色めく3月の甲東会、恒例の焼き肉パーティーの新年会も盛會に終わった。これに引き続き、この5月18・19日に甲東会主催のゴルフ・コンペが、箱根・仙石GCにて一泊二日で行われた。関西からも4名が参加し、リゾートピア箱根での前夜祭で盛り上がった流れのまま、新緑に映えるコースを全員元気に珍プレーも交えて楽しんだ。お互いに健闘を讃えあい、来年に向かっての一層のゴルフ精進を誓い合った。(K・A 記)

36回

平成17年5月19日(木)夕刻から、芦屋市のホテル竹園で行われた。関東方面からの参加者5名を含め、28名が集まった。冒頭、開会挨拶を田村幹事から、甲陽ファンについての説明と経過報告・今後の協力要請を36回生ファン検討委員の當舎・西村両君から、講演を福田君(動燃=動力炉核燃料開発事業団敦賀「ふげん」発電所元所長)から、を拝聴した後懇談に入った。卒業後50年ということで、実に50年ぶりに出席した仲間もあり、近況報告や「余生」の設計や心構えなどに話はつきなかった。

挨拶の中で田村幹事からは、本年度同窓会総会[8/27(土)ノボテル甲子園]では36回生はホームカミングデイとしてとくに多くの参加者が期待されているので、協力をお願いした。出席者のうち、有志9名が翌日芦屋カンツリー(クラブメンバー中川君の世話)でゴルフ会に参加、優勝は山下君、2位は開発君であった。

また、田村幹事からは、卒業後50周年記念行事として同期会として記念植樹を計画し、その経過説明と計画案の了承を一同お願いし、拍手多数で了承された。植樹作業は5/28(土)中学校講堂前中庭で石川校長、森川事務長、卒業生有志立ち会いで実施した。種類は落葉樹のコブシ。(幹事=舟越 記)



60回 角一会 (スミイチカイ)

2005年1月3日14:00より宝塚チボリカラカラテルメ宴会場にて、静先生、松井先生にご臨席頂き9年振りの学年会を開催致しました。

我が60回卒は角石町校舎の最初の卒業生であり(会名の由来です)、甲陽学院1万人目の卒業生を出した代でもあります。(中井君だったと記憶しています)。「魔の60回」とヤンチャ振りを甲子園、角石両校舎に轟かせてから早や四半世紀—今や立派なオッサンとなった

34名が多忙の中、集い、飲み、語らい、再会を固く約して散会しました。

(泥酔の為内容は覚えていない堀 記)

高等学校校舎が現在の地に移転した翌年の1979年春、新校舎での最初の卒業式で私共が巣立って以来26年の歳月が流れました。20年とか25年とか、区切りのいいところで同窓会を開くのが本筋でしょうが、我々の世代は良く言えば「働き盛り」、悪く言えば馬車馬のごとくコキ使われる中間管理職と申しましょうか、紅顔の少年時代を振り返りたくてもその余裕がない年代に居ります。具体的な数字を挙げますと、出席者のうち半数が現在単身赴任中という状況では、同窓会に馳せ参じたくとも時間が許されないという実情です。昨夏の全学同窓会で私共60回生は卒後25年の記念学年に指定されたにもかかわらず、出席者わずか2名という体たらくで、先輩諸氏からきついお叱りを受けた我が60回生同窓会幹事が一念発起し、ようやく開催できた一年遅れの「卒後25周年同窓会」となりました。(松本 記)



1月17日、午前5時から9時まで、ラジオ大阪(OBC)で放送された「阪神大震災スペシャル～忘れへん、あの日～大震災から10年」に、56回生の栗野仁雄氏(フリージャーナリスト)が出演。柳原博先生などの実名がとびだして、甲陽OBには印象深い特別番組となりました。

(河内厚郎・52回・OBC番組審議員)

○「会報 甲陽だより」の原稿募集○

次号(第73号)は、来年2月末頃に発行を予定しています。「会員だより(同期会・クラス会)」や「クラブのOB会だより」などのご投稿をお待ちしています。

原稿の締切日は来年1月10日です。

尚、原稿はできるだけ400字前後にして下さい。また、原則として原稿(含写真)は返却いたしませんのでご了承下さい。



吉本先生の思い出

虫明 聡太郎 (59回)

中学一年、初めての中間考査。一週間は何だかわからないうちに終わり、各教科の成績はバラバラで特に「幾何」は23点。希望と緊張と共に始まった私の中学校生活は不安と戸惑いに変わった。だめなら甲陽を辞めることも話し合っ

はともかく、先生は洋楽、特に米国の歌手シャーリー・バッシーが大変お好きで、ときには本当に楽しそうに話をして下さった。そのにこやかな表情は実に穏やかで、日頃の厳しさからくる私達の緊張感がくすぐられて緩和し、ユーモアとウィットが引き立った。

吉本先生から頂いた年賀状には毎年ご自身が描かれた風景画と文章が記されています。その美しい画ときっちりとした楷書体を見ると、自然と先生の板書の美しさが思い出されます。私達は何とアーティスティックな授業に触れることができていたのでしょうか！

(吉本先生の訃報については前号でお知らせしたところですが、今号では「教え子」からの追悼文のみ掲載しました。—編集部)

おわびと訂正

前号 (第71号) の高井悌三郎先生の訃報の中に誤字がありました。14頁の左段下から2行目「日本考古学協会の創立会長」は「創立会員」の誤まりです。筆者の橋本様ならびに読者各位にご迷惑をおかけしました。慎んでおわび申し上げます。(編集部)



訃報		事務局では左記会員の逝去の報に接しました。謹んで哀悼の意を表します。		(平成17年6月30日現在)	
佐々木幹男氏	(22回)	04年4月23日逝去	井上正紀氏	(22回)	04年4月15日逝去
三浦文夫氏	(20回)	04年4月10日逝去	小林貞彦氏	(19回)	04年1月8日逝去
川部正義氏	(19回)	05年4月22日逝去	松本康正氏	(18回)	04年11月逝去
藤木三男氏	(18回)	04年11月17日逝去	木村善述氏	(18回)	99年3月26日逝去
福塚正一氏	(16回)	05年4月11日逝去	長原克明氏	(16回)	02年1月16日逝去
野草俊作氏	(15回)	05年2月9日逝去	野田一郎氏	(14回)	04年6月17日逝去
関戸淳一氏	(13回)	04年10月8日逝去	谷山敏氏	(12回)	04年5月1日逝去
田中眞次氏	(12回)	04年12月28日逝去	森津常雄氏	(10回)	04年6月29日逝去
越田正勝氏	(10回)	01年2月逝去	川廷謹造氏	(10回)	04年12月17日逝去
高橋調三氏	(8回)	04年9月3日逝去	川合秀雄氏	(7回)	03年11月17日逝去
森永登規雄氏	(6回)	04年7月26日逝去	猿丸保氏	(6回)	04年12月16日逝去
宮部甫氏	(5回)	05年5月12日逝去	藤原研三氏	(5回)	05年2月24日逝去
高野哲郎氏	(22回)	00年7月6日逝去	東地宏興氏	(22回)	02年9月16日逝去
佐倉重光氏	(23回)	04年9月26日逝去	吉田倫郎氏	(24回)	04年8月7日逝去
石本憲太郎氏	(25回)	99年4月28日逝去	富田礼記氏	(25回)	05年1月14日逝去
西村孝典氏	(25回)	05年3月1日逝去	山本六郎氏	(25回)	04年5月14日逝去
竹氏康雄氏	(27回)	03年10月24日逝去	難波庸男氏	(27回)	04年11月27日逝去
寺下武美氏	(32回)	05年2月11日逝去	段中一良氏	(33回)	04年5月21日逝去
渡邊信夫氏	(35回)	04年6月30日逝去	井上彰彦氏	(36回)	05年3月21日逝去
乾俊一氏	(56回)	04年10月28日逝去	武田積氏	(高商2)	04年12月14日逝去
中尾正夫氏	(高商2)	05年3月9日逝去	岡田敏治氏	(高商3)	02年9月20日逝去
藤田昌俊氏	(高商3)	05年1月12日逝去	田路収三氏	(高商3)	05年2月1日逝去
家島正博氏	(高商4)	04年10月1日逝去	中西修二氏	(高商4)	05年1月8日逝去
古家新一氏	(高商4)	00年10月逝去	岡野弥須司氏	(機械1)	04年2月4日逝去
吉川靖次氏	(造船1)	04年8月30日逝去	西岡昭氏	(造船2)	05年2月4日逝去

告 知 板

☆ ご注意！ 住所・電話番号の問い合わせ ☆

最近、「甲陽学院同窓会」や「甲陽高校事務室」の名前を騙り、同窓生の携帯番号や住所、メールアドレスなどを問い合わせる電話がかかっているようです。

現在、同窓会や母校でそのような調査活動をしている事実はありません。

皆様には、先方の名称・住所・電話番号などをご確認いただいて、慎重な対処をお願いいたします。

☆ 新卒者の終身会費制度 ☆

今年高校を卒業した 86 回生の皆さんは、卒業時点で終身会費を納めることを選択できます。詳細は、3 月に振込用紙同封の文書にてご案内しているとおりです。

また、これに伴い、卒業後 7 年以内の方（卒業時に 7 年分の年会費を前納）でも、ご希望により終身会費制に移行していただけるようになっています。その際の金額は P.11 の表をご覧ください。

☆ 「ノボテル甲子園」の優待券 ☆

甲陽学院同窓会会員用に「宿泊 15% 割引」「レストラン & バー 10% 割引」の優待券を発行していただいています。2007 年 12 月 30 日までの優待券が事務局にございますので、ご希望の方は、お手数ですが、事務局までお電話・FAX・Eメールにてご請求ください。

☆ ーお願いー 住所変更の届け ☆

* 会報の発行に際し、毎回・約 100 通に近い会報が転居先不明で戻ってきます。

* その都度、事務局で労力と時間をかけて、転居先の調査を行い再発送を行っています。事務局の確認作業にも限界があります。住居を移転された時は、忘れずに事務局まで住所移転の通知をお願いします。

* 各回卒の理事・評議員の皆様は、同期の方に住所・勤務先等の変更の連絡がありましたら、必ず事務局にも、ご連絡の程お願いを申し上げます。

☆ 理事・評議員の皆様へ ☆

* 理事・評議員の皆様の中で、転勤などで関西から遠くに転居された方が目立ってきました。更に理事・評議員が選出されていない卒業回、また定員不足の卒業回も見られます。

* 同窓会を運営し活動を行う上で、理事・評議員の方々は重要な役割を担われており、同期の方々の代表でもいられます。会則上、理事・評議員は同期の方々が適宜の方法で選出をされることになっています。よって理事・評議員が空白の卒業回、また定員不足の卒業回の方々は、同期の方々と話し合いをされて、その更新・補充を事務局までお届けをお願いします。

* 選出の人数は、理事は、同期（卒業回）から 1 名。評議員は、各クラスから 1 名（5 名以内）です。

☆ 「会報・甲陽だより」の原稿募集 ☆

* 次号・第 73 号は、来年 2 月末頃に発行を予定しています。

* 「会員だより（同期会・クラス会）」・「運動部・文化部の O B 会だより」・「詩・短歌・俳句の発表」・「クラス会・同好会・研究会等の連絡」などのご投稿をお待ちしています。

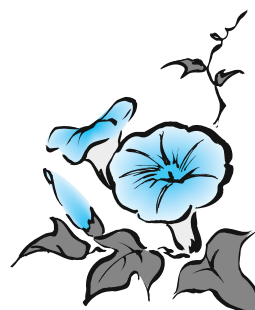
* 原稿の締切日は、来年 1 月 10 日です。

☆ 最近 5 年間に大学を卒業された方へ ☆

* 最近 5 年の間に大学・大学院を卒業された方々の、現住所と就職先等の連絡漏れがあり、その確認作業に事務局として難渋しています。

* この場合、高校卒業時の親元に連絡していますが、親元住所の移転も多く、これらの追跡調査に時間と費用と手間がかかります。必ずご連絡を下さい。

* 同期の理事・評議員、又はクラスの幹事の方は、同期の仲間に移動があれば、事務局までご一報下さい。



夏の会員総会

阪神・淡路大震災から10年、そして…

— 京都大学防災研究所 河田恵昭所長を迎えて —

8月27日(土) 14時～17時 於：ノボテル甲子園

今年度の会員総会は次のような要領にて開催いたします。同窓の友人、知人お誘い合わせの上、ふるってご参加下さい。ご家族同伴も歓迎です。

〈第1部〉河田恵昭先生を迎えて

あの阪神・淡路大震災から今年で10年がたちました。多くの同窓生にとって忘れられない体験であったことでしょう。「二度とあんな経験はしたくない」と痛感し、昨年来の新潟県中越地震やインドネシアの大津波の報道に胸のつぶれるような思いで接した方も多いことと思います。

しかし、周知のとおり我が国は「地震列島」です。南海地震、東南海地震をはじめとして、迫り来る脅威について十分な備えが必要であることは言うまでもありません。

今年の夏の会員総会には、特別ゲストとして、京都大学防災研究所所長の河田恵昭先生をお招きして、ご講演をいただくことにしました。河田先生は巨大災害、都市災害が専門で、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター長も兼務しておられます。迫り来る巨大地震の脅威とそれへの備えについてお話いただき、あらためて地震に対する防災意識を高める機会になれば、と考えております。(河田先生のプロフィールは11ページに掲載しています。)

〈第2部〉懇親会

第2部は会場を変えて、ノボテル甲子園の美味しいお料理と、ご寄贈賜りました日本酒「白鹿」やサントリーのビールとウイスキーで、楽しい懇親の場をもちたいと計画しています。お世話になった恩師の先生方にもご出席をお願いしております。大いに語り合い、懐かしい思い出を共にしたいものです。

ホームカミングデー

卒業後25年、50年の方々を対象として「ホームカミングデー」を企画しています。今年は36回生と61回生が該当します。ご参加いただいた対象学年の皆様にはささやかながら記念品を用意しております。ふるってご参加下さい。

56回生は当番学年です

会員総会の企画・実行にあたって新鮮なアイデアを出していただくために、毎年まわりもちの「当番学年」の方々が運営委員会に参加して下さっています。今年は56回生で、青野弘・土地雅明の各氏が会員総会運営委員として今回の総会を運営にあたっています。56回の同期生の皆様、多数ご参加下さい。

information

日 時 平成17年8月27日(土)
第1部 14時～15時30分
第2部 15時30分～17時
会 場 ノボテル甲子園 (旧甲子園都ホテル)
TEL 0798-48-1111
会 費 一般会員 4,000円 (当日会費)
学生会員 2,000円 (当日会費)
同伴家族 2,000円 (当日会費)
新 卒 者 (平成17年3月卒) 無料

※母校への問合せはご遠慮下さい。

申込方法 同封の振替用紙で、8月18日(木)までに会費をお振込み下さい。あるいは8月22日(月)までに事務局まで参加のご予約を下さい (葉書、電話、FAX、Eメール)。この場合は特別割引として、一般会員は3,500円、学生会員・同伴家族は1,500円とさせていただきます。
問合せ先 甲陽学院同窓会事務局 〒662-0096 西宮市角石町3-138
TEL 0798-71-4888 (月・水・木・金) 10時～16時
(8月12日～19日は母校夏期閉鎖期間につき不在)
FAX 0798-71-4890
Eメール fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp

☆当日の料理・名札等の準備がありますので、できるだけ事前振込ご予約をお願いいたします。

☆まだまだ暑い折ですので、当日はカジュアルな服装でご参加いただいて結構です。

☆一昨年4月の役員総会の決議により、新卒者以外の無料会員の制度が廃止になりました。上記の会費にて運営いたしたく、よろしくご了承下さいますようお願い申し上げます。



Superbly located for business or pleasure.

www.novotelkoshien.com

西宮市甲子園高潮町3-30 TEL.0798-48-1111



ノボテル甲子園



▶ A worldwide leader in hotels, tourism and services